

親善交流証書

第11回いとしま8.6平和劇

Made in Dream

～平和への想いをつなぐ青い目の人形「ルース」の物語～

DECLARATION OF FRIENDLY EXCHANGE

Gifts with dolls have recently exchanged Japanese and American dolls. Through our hands and eyes, the doll exchange is a way to contribute to international friendship and to contribute to the development of friendship between our people. The declaration will play an important role in the relationship between our two schools.

Yoshioka Elementary School

St. Joseph's School

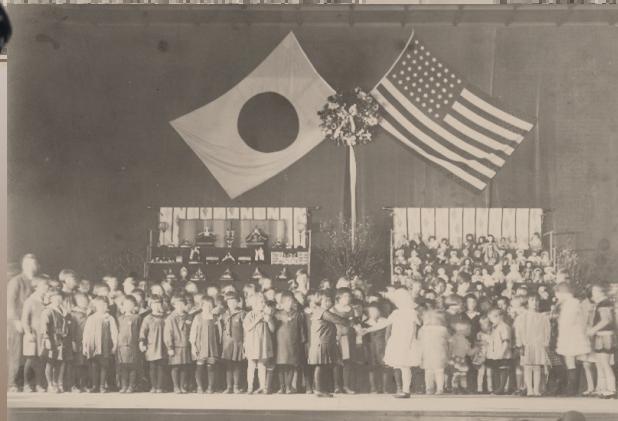
Yoshioka Elementary School

St. Joseph's School

2023年8月5日(土)19:00 開演

6日(日)14:00/18:00 開演

各公演とも開演30分前に開場いたします



日本国際児童親善会主催 親善人形歓迎会・青い目の人形を抱く渋沢栄一（1927年3月3日）：渋沢史料館所蔵／ルース・証書：可也小学校にて撮影

会場 伊都文化会館 大ホール

糸島市前原東2丁目2-7

駐車場には限りがございます。満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください

チケット 小中学生 200円 高校生以上 500円

※いかなる場合もチケット購入後の変更・払い戻しは、できませんのでご了承ください

※小学生未満のお子様もご覧いただけますが、席が必要な場合は有料となります

※当日券も販売いたしますが、満席の場合はご容赦ください

※カルテットオンラインでもご予約を受けておりますのでご利用ください



チケット
販売箇所

酒みせ ちきゅう屋 (志摩小金丸 2105-1)
教育会館 (泊 1393-5)
(一社)糸島市観光協会 (筑前前原駅北口)
糸島の音楽スタジオ グリーンコード (二丈武 581)

お問合せ

✉ 86peace.act@gmail.com
FB <https://www.facebook.com/86heiw>
☎ 090-6840-7200 (嵯峨)



主催 いとしまハローピースアクト

後援 公益財団法人渋沢栄一記念財団 糸島市 糸島市教育委員会 (一社)糸島市観光協会



芸術文化振興基金助成事業 公益財団法人三菱 UFJ 信託地域文化財団助成事業

九州・沖縄から文化力プロジェクト 令和5年度糸島市市民提案型まちづくり事業

協賛 東洋アミューズ株式会社 協力 横浜人形の家 Neo-Impact



第一部 講演「青い目の人形から見える渋沢栄一の夢」

講師 渋沢史料館 館長 桑原功一

日米人形交流事業を日本で支えたのが新しい壱万円札の顔となる渋沢栄一翁。幼少期から培われた体験と学習は、彼の生涯に大きな影響を与え、日本経済の近代化に多大な功績を残し社会公共事業、国際交流にも貢献した。人形交流事業は、なんと栄一翁が 87 歳の時に携わったもの。彼を動かしたものは一体何だったのか？青い目の人形から見える夢や思いを、栄一翁の生き方を交えながらお話いただき、糸島にも息づく栄一翁の想いに触れる。

第二部 平和劇『Made in Dream～平和への想いをつなぐ青い目の人形「ルース」の物語』

「夢」を持ってない中学 2 年生のあかりは、立志式が迫る中、何も考えることができず悩んでいた。そんな時、ルースに会いに来たというお爺さんと出会う。中学 1 年生の時に転校してきたあかりは、ルースのことをよく知らない。家に帰り、気になるあかりは、ルースのことを調べ始める。そして、眠ってしまうのだが…夢の中で不思議な出来事が起こる。そして、青い目の人形「ルース」が歴史的にもとても貴重な存在であること、人形に託された多くの人々の「夢」や「想い」、人形を通して見える世界の歴史を知る。

「このままじゃダメだ」と分かっている、まっくらな宇宙の中抜け出せずにいたあかり。輝く星を探しまよっていたあかりに、一筋の光が見えた瞬間だった。「Made in Dream」こうしたい、こうなりたいという夢が自分自身を、街を、国を、そしてこの世界を創って行くということを悟る。

コロナ禍で、夢を持つこともできずにいる子どもたち、大人もそうかもしれない。暗い屋根裏でルースは平和を願いながら 38 年間もずっと待っていた。そして、今、私たちに語りかけてくれている。戦争の愚かさを、守ってくれた人々のやさしさを、夢や希望を持つことの大切さを。

原作:古川千年著/平和の大使青い目の人形「ルースちゃん」～語り継ぐ平和のために～

脚本・監修:江川佳世 演出・演技指導:東条柳 舞台音楽制作・ピアニスト:常盤充代 表現指導:水上初佳
舞台・照明・音響:東洋アミューズ株式会社 ヘアメイク:Neo-Impact

主な出演者やサポートスタッフ:糸島市内の小中高生と大人たち

青い目の人形「ルース」とは

1927 年(昭和 2 年)の人形交流事業では、アメリカから友好のしるしとして日本各地の小学校や幼稚園などに約 12000 体の友情人形が贈られました。その一つである「ルース」は、糸島郡可也村(当時)の可也尋常・高等小学校に贈られました。当時の子どもたちの作文から、カルフォルニアから贈られたこと、ひな人形やかぶと人形などもいっしょに飾られ、7 月 23 日に学校で盛大な歓迎式典が行われ、「人形を迎える歌」を歌ったこと、そしてアメリカの子どもたちに感謝したことなどがうかがい知れます。

しかし、戦争が始まると、アメリカから贈られてきた青い目の友情人形は「敵性人形」として処分され、竹やりで突かれ、踏みつぶされ、焼かれるなどして処刑ともいえる無残な形で姿を消していきました。「ルース」も処分するように通知が来たそうですが、そのあと「ルース」がどうなったのか、記録には残されませんでした。

時は流れ 1979 年(昭和 54 年)、校舎新築工事の時のこと。「戦時中、青い目の人形の処分の話があったときに、若い先生たちが校長に申し出、今後のことは一切触れないという約束で天井裏に隠した」という証言があり、「ルース」はその言葉通りに裁縫室の天井裏から昭和 2 年の歓迎式典時の作文集「アメリカからルース人形さんをお迎えして」とともに発見されたのでした。

「ルース」は今も可也小学校の校長室前のガラスケースの中にいます。現存する青い目の人形は 300 数体余り、歴史的にも価値のある人形なのです。



「ルース」と当時の文集

ご来場の皆さまへのお願い

新型コロナウイルス感染症は 5 類へ移行となりましたが、まだ不安の多い状況です。必要時はマスクの着用をお願いします。また混雑回避のため、終演後は規制退場としますことをご了承ください。



参加者&スタッフ随時募集中!

見学・体験もできますのでお問い合わせください♪

活動を支援してくださる賛助会員も募集しています!

団体・企業会員 一口 2000 円/5000 円 個人会員 一口 500 円

*平和劇当日のパフレットに広告やお名前を掲載させていただいています
詳細はメールでお問い合わせください

クラウドファンディングにも挑戦中!

動画配信ご希望の方はこちらから♪(7/31×切)
他にもリターンを用意していますのでご覧ください!

